

「メンズバスケット」の開発に関する共同研究

豊田修身*・阿部優*・君山和高**・中臣 一**・遠藤 元**・伊藤明日香**・清水貴之**

*大分県竹工芸・訓練支援センター・**「メンズバスケット」開発研究グループ

Development of Men's Basket

Osami TOYODA* Masaru ABE* Kazutaka KIMIYAMA** Hajime Nakatomi** Hajime ENDO**

Asuka ITO** Takayuki SHIMIZU**

*Oita Prefectural Bamboo Craft and Training Support Center・**Group 「Development of Men's Basket」

要 旨

若手工芸家を中心にした「メンズバスケット」開発研究グループでは、男性的な感覚のバッグ、カバン、書類入れなどの「メンズバスケット」の開発を試みた。メンバーの代表は本研究で開発を試みようとしているものの原型となるショルダー型の竹バスケット試作に取り組んだ経緯があり、その製品を常時携行する中で「メンズバスケット」の商品としての可能性を確信した。技術的及びデザインの課題を解決して製品化を図るために企業ニーズ対応型研究事業に申請して竹工芸・訓練支援センター研究指導課と共同で研究を行った。

1. はじめに

申請されたメンズバスケットの開発研究の内容は、製品化する上での課題として次の3点が挙げられていた。

屋外の人混みなどに耐えうる強度を持つ構造の追及
男性的な形態を生み出すデザインの研究

製品の付加価値や品質に大きく影響を与える金具等の副資材に関するノウハウの習得

そこで、共同研究の分担として 強度を持つ構造の課題の解決には、竹の編組技術の研究と共に木や皮革などの異素材との組み合わせによる解決を考える必要があるので、竹工芸・訓練支援センター研究指導課（以下、竹センターと略す）と「メンズバスケット」開発研究グループ（以下、グループと略す）で共に重点的に取り組むことにした。

デザインの研究は、企業側に技術蓄積がないので、企業と共にデザインプロセスを研究する場として竹センターがリードして進め、デザイン上の課題解決を図った。

金具等の副資材に関するノウハウの習得は、企業側では幅広い情報の収集が難しいので、竹センターで公設試験研究機関のネットワーク等を活用し、先進地調査などを行うと共に、竹センターとグループで協働しながら行った試作をとおしてノウハウを習得した。

て得たノウハウをいくつかの試作に生かしていく手法で研究を行なった。柳行李の基本の形態は柳のみで作るが、持ち運ぶようになるにつれて角や縁の補強が必要になり、布や皮革で強度を持たせて丈夫な製品を作ってきた。（Fig.1）

また、現在、「豊岡鞆」として産地ブランドを形成しつつある鞆産業において布や化学繊維、皮革などで製造されるアタッシュケースや旅行鞆など、強度を持たせたものは、構造を木製（桐や合板）にしているものがあり、その技術は強度の克服という点で、研究の参考となることが多かった。



Fig.1 杞柳の生地の角を革で補強したもの

2. 研究の内容

2.1 強度と構造に関する研究

この研究については、杞柳の産地で柳行李の製造技術から鞆の産地に発展した兵庫県豊岡市の柳と鞆の産業を調査することによってノウハウを得た。そして、調査によ

2.2 デザインの研究

これまで別府では女性向けのバッグが商品として多く作られ、様々なデザインのもので生まれてきた。しかし、

男性用は作家やクラフトマンが自分用に作るほかは、ほとんど作られてこなかった。このため、男性用のかばんのデザインにはどのような形態、色彩、雰囲気が求められるのかを全く一から研究する必要があった。そこで、研究会において下記のようなテーマでアイデアを出しながらメンズバスケットデザインの共通認識を探った。

- ・メンズバスケットって何？
 - 共通イメージを作りましょう。
 - 男性は何を持ち歩いているか。
- ・自分が使うならどんなバスケットが欲しいか
 - 今日はスケッチ型プレーンライティング法

その結果、以下のコンセプトで具体的アイデア展開に取り組んだ。(Fig.2)

形態のイメージは曲線より直線ラインで、色彩は渋みを出して黒や濃いグレーや焦げ茶系統で、常時持ち歩き、かつ、会議やミーティングにも携帯できる大きさ、自分がいつも持ち歩けるような品質と気品が備わっていること

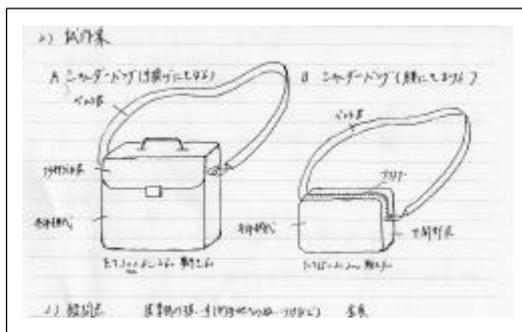


Fig.2 アイデアスケッチ等

2.3 副資材に関するノウハウの習得

このテーマについてはグループのメンバーが各種工芸関係情報やかばん企業のカタログなどを入手してきてお

り、その情報を基にして皮革の加工や染色の技術に取り込むと共に、かばんに合う金具の選定などを進めた。また、大分市にある唯一の皮革のショップである「大分クラフト社」の岩津氏から竹素材に合う皮革の選定、必要な道具のリストアップなど多くのノウハウを伝えていただいた。

3. 研究の結果と考察

3.1 研究の成果としての試作品

強度や構造の研究及びデザインの研究の結果、いくつかのユニークな製品試作ができた。(Fig.3)

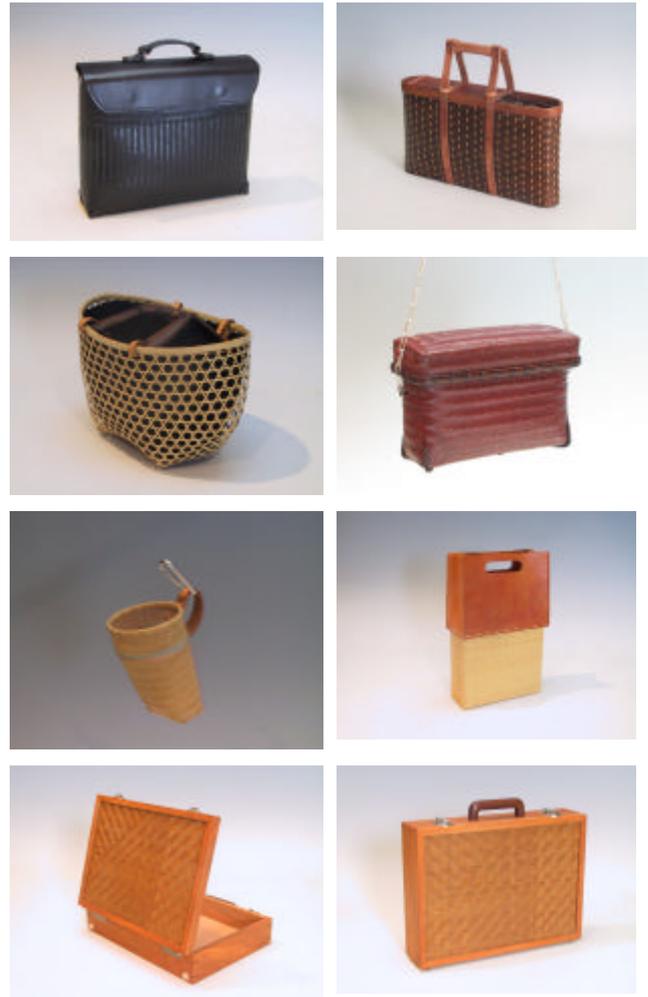


Fig.3 7点の共同研究成果試作品

試作品は男性のメンバーがそれぞれ1点の試作をした。3つの研究課題のどの点にポイントを置いたかによって試作の方向性は異なることになったが、テーマは相互に密接に関係しており、ひとつの成果が研究全体に良い結果をもたらしたと感じている。今後は、自分自身がモニターになり、常に持ち歩いて広く意見を聞くことに努めたい。その実践の上でそれぞれの製品をもう一度この研究会でリデザインし、質の高い製品に仕上げ、「別府発のメンズバスケット製品」として別府竹製品のひとつのブランドを築いていきたい。